

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、**机等の消毒をお願いします。**



オレンジ・パープル・グリーン・ブルー各ゾーン、3階閲覧席に設置しています。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

10月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「競争社会の光と影」(～11/13)

2F パープルゾーン 三角台 「コロナブルーを乗り越える」(～11/13) **NEW!**
「コロナブルーを乗り越える」というテーマで集英社インターナショナルの呼びかけのもと各界の読み手が選んだ本を中心に、日比谷図書文化館の司書が選書したものを展示します。

2F エレベーターホール 「これからの書店・図書館・出版社・取次」(～2021/2/28) 展示期間延長

「千代田区生きものさがし 2020」(～10/31)

3F ブルーゾーン 「HIBIYA NOTE -日比谷の音はボーダレス。-(～10/16)

3F グリーンゾーン 「解き明かされる不思議 ～未知から人知へ～」(～2021/1/15) **NEW!**
「未知のもの」を科学の発展により解き明かしてきた先人たちの歩みから、この未曾有の困難を乗り越える足掛かりを見つけ、その軌跡を多くの本とともに辿っていきます。

展示 PICK UP

■2Fパープルゾーン 三角台【江戸・東京】の本を集めたゾーン ～10/13(火)

コロナブルーを乗り越える
新型コロナウイルスという脅威により外出を伴う娯楽に制限がかかり、その影響で「本」を読むという人が増えています。こちらの展示では、集英社インターナショナルの呼びかけで各界の読み手が選んだ「コロナブルーを乗り越える」ための本を中心に日比谷図書文化館の司書が選書したものを紹介します。

『驚異と怪異』
国立民族学博物館 編
河出書房新社 2019年
※館内のみのご利用となります。

『ニッポンの新しい小屋暮らし』
YADOKARI 著
光文社 2017年

おすすめします! MY FAVORITE
図書フロアスタッフの推薦本を紹介します。

『名人に香車を引いた男』
江戸時代から続く将棋の世界では、これまで様々な棋士達が活躍してきた。中でも升田幸三は、昭和を代表する棋士の一人だ。この本は、宿敵・木村義雄との対局や将棋の存亡をかけたGHQとの面談など、半ば伝説となった逸話の数々を自らが著した一冊だ。藤井聡太二冠の活躍で将棋や棋士に注目が集まる今、将棋史に残る伝説の棋士の軌跡を振り返ってみてはいかがだろうか。

升田幸三 著
中央公論新社 2003年

特別展 千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

荒俣宏の 大大マンガラクタ館

Aramata Hiroshi's Grand Treasure Trove MANGA-ful

日比谷図書文化館では10月16日(金)より、「荒俣宏の大大マンガラクタ館」展を開催いたします。〈マンガラクタ〉—マンガを含め、「だれかに発見されないかぎり、ずっとゴミくず同然に埋もれてしまう」ガラクタこそを面白がる、という価値観を示した造語。このことばを考え出したのは、作家の荒俣宏氏です。本展は京都国際マンガミュージアムで開催され、この秋、東京日比谷へと場所を移しオリジナル展示を加え開催します。多くの人が見向きもしなかったモノ、コト、ヒトを情熱的に蒐集し、評価してきた、ある意味子どもの頃から「大大マンガラクタ館」の館長だったと言えるアラマタさん。本展「荒俣宏の大大マンガラクタ館」は、その人生と好奇心の拡がりや、自身のコレクションや創作物などで紹介する展覧会です。



展示構成

- 漫画と人生
- 怪奇文学大山脈
- 図鑑の博物誌
- アラマタ美術誌
- 奇っ怪紳士録
- 帝都物語
- 稀書自慢

※日比谷図書文化館オリジナル展示

2020年10月16日(金) → 12月16日(水)
千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室

↑ 中学時代の荒俣宏による『金魚熱帯魚飼育日記』

荒俣宏 (あらまた ひろし)
作家。京都国際マンガミュージアム館長。1947年東京生まれ。慶応義塾大学卒業後、10年間のサラリーマン生活のち独立。百科事典の編集助手をしながらい小説『帝都物語』がベストセラーになり、日本SF大賞受賞。『世界大博物図鑑』で、サントリー学芸賞受賞。神秘学、博物学、風水等多分野にわたり精力的に執筆活動を続け、その著書、訳書は350冊あまり。稀書書のコレクターとしても有名である。

2020年 10月16日(金) → 12月16日(水)

※休館日: 10月19日(月)、11月16日(月) ● 開室時間: 月曜～木曜10:00～19:00、金曜10:00～20:00、土曜10:00～19:00、日・祝 10:00～17:00 ※入室は閉室の30分前まで ● 会場: 日比谷図書文化館 1階特別展示室 ● 観覧料: 一般300円、大学・高校生200円、千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。 ● 主催: 千代田区立日比谷図書文化館 ● 企画協力: 京都国際マンガミュージアム/京都精華大学国際マンガ研究センター

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

千代田図書館企画展示 展示

おとなも遊べる “少年文庫の世界”

● 期間: 9月28日(月)～12月26日(土)
● 休館日: 10月25日(日)、11月22日(日)
● 場所: 千代田図書館9階 展示ウォール

「ナルニア国ものがたり」「ドリトル先生」シリーズ、「長くつ下のピッピ」3部作(岩波書店)など、いまも読み継がれる数多ある児童書は、おとなになってから読み返しても不思議な世界や冒険の旅へと誘ってくれます。本展では、児童書と児童書関連本約150冊を展示・貸し出しするほか、児童書の世界観を彩る岩波少年文庫の“さし絵”をパネルで展示します。

● さし絵の一例 ●
『クリスマス・キャロル』
『はてしない物語』
『ジャングル・ブック』
『風になつてきたメアリー・ポピンズ』
『冒険者たち』シリーズ など
詳しくはホームページでご確認ください。

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2020年10月							2020年11月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
25	26	27	28	29	30	31	29	30					

■ お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4
TEL: 施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: <https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

access
〔都営地下鉄〕
● 三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
〔東京メトロ〕
● 丸ノ内線
● 日比谷線
「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分
● 千代田線
「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

10・11月の講座

〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。**千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。**

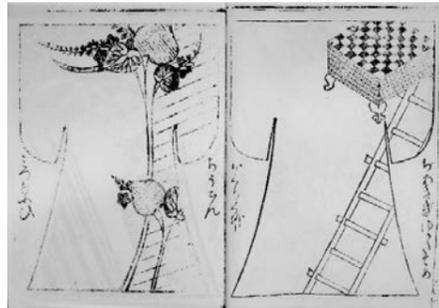
▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

10/8
(木)

江戸歴史講座第67回 EDO ART EXPO関連講座 きものの17世紀—華ひらく文様

講師:丸山 伸彦(武蔵大学 人文学部 日本・東アジア文化学科 教授)

現代のきものは多様な文様を特徴としている。その文様が花開いたのは桃山時代から江戸時代にかけてであるが、特に17世紀には劇的ともいえる展開を示している。この時代の服飾史に光を当て、文様の変化と出版等との関連から、日本が流行という現象が生まれたもっとも早い文化圏であることを明らかにする。



『新撰小袖 御ひいなかた』 寛文7年(1667年)刊

- 日時:10月8日(木)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円(千代田区民 500円)

10/14
(水)

ワハハ本舗主宰 喰始が語る、 これからのショービジネス

講師:喰 始(ワハハ本舗主宰・演出家)

「ゲバゲバ90分」、「カリキュラムシーン」、「天才・たけしの元気が出るテレビ」、「モグモグGOMBO」、「全日本仮装大賞」等を手掛けてきたワハハ本舗主宰の喰始氏。今般のコロナ禍はワハハ本舗にも大きな打撃を与えました。本公演の中止、若手芸人も活躍の場を失いました。今回は、このつらい時期をどう乗り越えようとしているのか、アフターコロナで目指すものは何かを語っていただきます。



- 日時:10月14日(水)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:1000円

10/23
(金)

KEK物理学シリーズ vol.3 電子の悩みが新材料を生み出す ～量子ビームで見るナノ構造～

講師:村上 洋一(高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 教授)

物質の中で電子はとても悩んでいます。自由に振る舞えないからです。でも環境を少し変えてやると、電子は生き生きと動き回り、新材料の源にもなります。高エネルギー加速器で作られる量子ビームを使うと、小さなナノ構造の中で繰り返し見られる電子のドラマをつぶさに観測することができるのです。



- 日時:10月23日(金)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円

11/2
(月)

星座をめぐる

講師:皆川 敏春(星のソムリエ®みたか) / 北崎 直子(星のソムリエ®みたか)

星座は好きですか?遠い異国の地で誕生した星座は、その地域の神々、英雄、身近な動物たちが夜空に描かれました。最も古い星座はプトレマイオスがまとめ、世界がグローバル化を求めた頃、大航海時代の需要品として南半球にも星座が誕生しました。今宵は星座の誕生物語を、時空を超えて旅をしてみましょう。



撮影:皆川 敏春氏

- 日時:11月2日(月)19:00~21:00(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円

11/7
(土)

荷風の恋—初恋、情熱、官能

講師:持田 叙子(近代文学研究者)

永井荷風は恋多き作家です。多数の女性に魅せられ、もの想いました。恋こそ人生の華であると考えました。かぐわしく麗しい荷風文学の恋の名場面を読みます。『腕くらべ』『つゆのあとさき』『雪の日』...。皆さまと読む90分が終わったとき、芳醇なワインを飲んだようにほろ酔い気分になれば嬉しいです。



新橋巴家八重次 「文藝倶楽部」1908年(明治41)4月号 (市川市文学ミュージアム蔵)

- 日時:11月7日(土) 14:00~15:30(13:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:1000円

※5月15日(金)の講座が延期されたものです。

11/20
(金)

千代田区民講座 笑顔を健康習慣にさせる秘訣

講師:小林 良子(株式会社スマイル・フォスター代表取締役)

人生を豊かに過ごすために整えたい4つの健康(身体・心・経済・社会)に対して、笑顔がどれだけの効果を発揮するかを理解したうえで、笑顔の習慣を作る実践的なトレーニングを行い、笑顔力をアップしていただきます。(主催:NPO法人 神田雑学大学)



- 日時:11月20日(金) 19:00~20:30(18:30開場)
 - 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員:60名 ■ 参加費:無料
- 10月5日(月)から千代田区民受付開始。区民以外は10月12日(月)から受付開始。 ※5月8日(金)の講座が延期されたものです。

11/26
(木)

山梨流 書店と図書館の新しい関係

講師:須藤 令子(朗月堂書店代表取締役)

県立図書館と地元の書店が中心になって組織する「やまなし読書活動促進事業実行委員会」(通称:やまどく)。作家の講演会やサイン会、作家と一緒に地元のワインを飲む会、ビブリアバトル等様々な企画を成功させ、その活動は全国の書店、図書館、出版関係者からの注目を集めています。「やまどく」の実行委員長であり、地元の有力書店「朗月堂」社長の須藤令子氏にこれまでの成果や苦勞、これからの新たな取り組みについてお話をうかがいます。



- 日時:11月26日(木)19:00~20:30(18:30開場)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:60名 ■ 参加費:1000円 10月12日(月)から受付開始。

11/29
(日)

産業化された製本の修復 —針金綴じと釘綴じについて—

講師:岡本 幸治(製本家、書籍修復家)

2019年度に修復した特別研究室の蔵書の中に針金や釘で綴じられている本がありました。針金綴じや釘綴じは製本が産業化される中で生み出された技術ですが、今回修復した本の針金や釘は腐食が進み、修復には大変手間がかかる状態でした。この修復を行った講師に修復の過程をお話いただくとともに、針金綴じや釘綴じはどのように製本に用いられてきたのか、その利点と欠点、耐久性における糸綴じの本との比較などから、針金綴じや釘綴じの本を長く活用するための扱い方についても考察します。



釘綴じの本:『日本歴史図録 上』(1918年)

- 日時:11月29日(日)14:00~15:30(13:30開場)
 - 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 - 定員:60名 ■ 参加費:1000円(千代田区民・学生500円)
- ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

NEWS 1

常設展示室にプロジェクションマッピング型 地形模型が導入されました!

1階常設展示室では「江戸・東京の成立と展開」を総合テーマに、環境・人間・都市を基本軸として、1万年以上前の旧石器時代から近現代までの千代田区の歴史を5つのテーマにわけて紹介しています。今回、「V.まちの歴史」コーナーの一角を改修し、プロジェクションマッピングによる地形展示を導入しました。新しい展示では、立体模型に画像を投影することで、まちの地形と歴史の関わりを立体的にとらえることが出来るようになりました。



地質図(1/20万シームレス地質図) 産業技術総合研究所 提供

NEWS 2

CAFE TIME はじめました。

地下1階ライブラリーダイニング日比谷(Library Dining HIBIYA)では平日の14時~17時がカフェタイムとなりました。お食事のご利用は出来ませんが、ドリンクの注文でお席をご利用いただけます。図書フロアの本を持ちこむことも出来るので、ゆったりとした席で調べ物や勉強などにご利用ください。



イメージ

- 〈営業時間〉
- 平日 11:00~19:00
 - 土曜・日曜・祝日 11:00~17:00

※平日の14:00~17:00はカフェタイムとなります。それ以外の時間はお食事をご利用いただけません。
※ラストオーダーは閉店の30分前となります。

NEWS 3

毎日更新!※ 公式Twitter 「今日の一冊」



図書フロアではあらゆる場所で蔵書を使った展示を行っています。その中でも人気の展示が「今日の一冊」です。この展示は図書スタッフが毎日、その日の出来事や話題に合った本を1冊選び展示しています。日比谷図書文化館の公式Twitterでは6月1日より「今日の一冊」を毎日更新※、紹介しています。気になった本はホームページから予約も出来ます(貸出券の登録が必要です)是非、本を選ぶヒントにしてください。Twitterのフォローもよろしくお祈いします。

※休館日を除きます。